

平成 28 年度第 2 回小田原市博物館構想策定委員会議事概要

- 1 日 時 平成 28 年 6 月 12 日(日) 10:00~12:00
- 2 場 所 おだわら市民交流センターUMECO 第 5・6 会議室
- 3 出席者 委 員：矢島委員長、相澤副委員長、井上委員、吉良委員、田尾委員、鳥居委員、中村委員
職 員：栢沼教育長、関野文化部長、杉崎文化部副部長、安藤文化部副部長、大島文化財課長、諏訪間城址公園担当課長、古矢図書館長、望月行政情報係長、小林病院経営係長、三上主査、佐々木主査、大木主査、大川主査、渡邊主任、鈴木主事、鳥居主事
事務局：大木生涯学習課長、湯浅尊徳記念館担当副課長、岡郷土文化館担当副課長、田中主事、大貫主事、保坂主事

4 概要

教育長挨拶

栢沼教育長から挨拶があった。

報告事項

岡郷土文化館副課長より、前回からの修正点を報告した。また、本日が小田原市博物館基本構想をご協議いただく最後の委員会となるため、全体を通してご意見をいただき、委員会内で修正を終えることができなかった部分については、正副委員長の預かりとし、事務局と最終調整の上で確定することとしたい旨を伝達した。

協議事項

小田原市博物館基本構想文案の全体確認について

- 【矢島委員長】 それでは議事を進める。先ほど、事務局より前回の修正点について説明があった。また、本日は、基本構想をご協議いただく最後の委員会となるため、全体を通してご意見をいただき、必要があれば加筆修正いただくということとなる。順を追ってご意見をいただきたいと思いますので、まずは「はじめに」についてご発言願いたい。
- 【鳥居委員】 最初の段落の 2 行目の小田原北条氏(後北条氏)の首都としての部分についてだが、首都はこの時代の概念として正確に合致する訳ではない。鉤括弧をつけた「首都」としてはどうか。また、この後に展示とも非常に関係する文言が続くが、すでに記載がある宿場町と二宮尊徳に加えて、展示でも大きく扱うこととなると考えられる小田原藩についても入れておいた方が良くはないか。
- 【矢島委員長】 具体的にはどのような文章を入れたら良いか。
- 【鳥居委員】 全体的な繋がりを無視して江戸時代だけに限定するならば、江戸時代の小田原には小田原藩の存在や東海道の宿場町として栄えた。などではないか

と思うが、中世からつながるような文章にする必要がある。

- 【岡郷土文化館副課長】 東海道の宿場町に対して小田原藩の城下町というような表現などではいかがか。
- 【鳥居委員】 そのような表現で良いと思う。
- 【吉良委員】 首都は極めて近代的な用語である。政治の中心地であることを示すような中世的な用語で何か言い換えができないか。
- 【岡郷土文化館副課長】 3ページの2行目にも同じような表現があり、小田原北条氏の広大な領国の中枢や中心という意味で首都と記載している。言い換えができるような適切な言葉があればお聞きしたい。
- 【相澤副委員長】 少し長いが、領国の中心ではいかがか。
- 【鳥居委員】 用語としては間違いではない。
- 【井上委員】 政治の中心などもっと簡単な文言ではどうか。
- 【鳥居委員】 政治と文化の両方の中心であるが、言い回しがくどくなるので、政治の中心で良いかもしれない。
- 【吉良委員】 首都とは別だが、都市的機能ができてきており、中世都市であるということが示せれば良いのではないか。
- 【相澤副委員長】 場所を示す必要があると思うので、中心地などになるのではないか。宿場町など歴史的な用語も出てくるし、先の発言と重なるが、領国の中心という言い方ならば場所を指すことになると思うがいかがか。
- 【吉良委員】 確かに領国の中心としての言い方が良いかもしれない。
- 【鳥居委員】 言い方としては誤りがないと思う。
- 【吉良委員】 ここは都市の発展について述べている箇所だと思うのだが、領国の中心から先の記載が江戸時代の東海道の宿場町、二宮尊徳の生誕の地とあり、表現が細かくなっていると思う。その先についても祭礼や伝統産業と続いていくので近代の都市的発展に触れられていない。また、小田原藩の重要性は非常に高いが、東海道の宿場町という記載だと小田原以外の地も入ってきてしまう。
- 【矢島委員長】 江戸時代の部分については小田原藩を入れる必要があると思うので、書き足すということではいかがか。
- 【鳥居委員】 例えば、江戸時代には相模国唯一の城郭を持つ小田原藩が置かれ、宿場町として栄えた。というような言い方だと少し良くなるのではないか。
- 【中村委員】 戦国時代についてはどのような表現とするか。
- 【鳥居委員】 やはり領国の中心という言い方になるのではないか。また、二宮尊徳の生誕の地という部分については、歴史的な人物としてはなど、人物部門としての書き方ではどうか。二宮尊徳の他にも同列で書けるような歴史的な人物がいればだが、いかがか。

- 【矢島委員長】 二宮尊徳の頭に農政改革について付け加え、それを進めた二宮尊徳の生誕の地という書き方ではいかがか。また、先程の吉良先生のご指摘のように祭礼や伝統産業だけではなく、近現代の都市的な発展についても付け加える必要があると思う。
- 【中村委員】 現在まで受け継がれた祭礼や伝統産業など民俗的環境にも恵まれという部分だが、民俗的環境は新しい用語である。あえて使わなくとも、祭礼や伝統産業にも恵まれで良いのではないか。
- 【相澤副委員長】 先程も出たが、二宮尊徳生誕の地と江戸時代の城郭を備えた小田原藩とはレベルが違うと思うので、少し乱暴かもしれないが、二宮尊徳については削除して、城郭を備えた小田原藩が置かれ、大きな宿場町もあり、それが現在の県西地域の中心地としての役割に繋がっているなどの書き方で、現在に繋げてしまっただけではどうか。歴史的な環境が現在の小田原市に繋がっていることを示す形の書き方ではいかがか。
- 【鳥居委員】 足柄県の中心だった時代はどのくらいの年数か。
- 【井上委員】 3～4年くらいである。
- 【鳥居委員】 それでは、ここに入れるには少し小さいかもしれない。
- 【井上委員】 歴史系の博物館として中世や近世のことを入れるのであれば、近現代の鉄道や政治家らの別邸ができ、都市整備が明治大正と続いて行われたことも現在の県西部の中心地であることに繋がると思うので、そのことも入れてはどうか。分量的に難しいようであれば、中世・近世・近代で3つのポイントを入れた方が現在に繋がるのではないかと思う。
- 【吉良委員】 箱根の入口であるという観光立地のことは入れなくて良いのか。小田原がどのような都市として発展してきたのかということが正確に書かれれば良いと思う。それには二宮尊徳の生誕の地というのはやはりレベルが違うのではないか。
- 【矢島委員長】 それでは、今までのご意見を踏まえ、小田原という都市の歴史的な特徴と現在持っている地域の様々な資源の概略を説明する形で修正するという事にさせていただきたい。最終的な文言については、先ほど事務局から説明があったように正副委員長にお任せいただき、事務局と調整するという形にさせていただきたいと思うが、よろしいか。
- 【全委員】 異議なし。
- 【矢島委員長】 それでは、「はじめに」については以上でよろしいか。
- 【中村委員】 最後の段落についてだが、博物館資料の説明の所が、古文書や民具などの博物館に収蔵される資料となっているが、博物館資料の説明としては狭すぎるのではないか。具体的には後の章で歴史・考古・民俗資料などが出てくるので、ここでは単に博物館に収蔵される資料として、古文書や民具と

いう文言は削除してはどうか。

- 【矢島委員長】 他には何かあるか。
- 【鳥居委員】 先程出た最初の段落の二宮尊徳の所だが、近代以降の報徳思想という視点を加えれば、扱いとしては大きくなるので、削除せずとも良くなるのではないか。
- 【矢島委員長】 近代に繋がる農政改革の主導者であったという文言を二宮尊徳に加えれば、残しておくことができるかもしれない。
- 【鳥居委員】 農政だけではなく、報徳社の活動があるので、それも入れることができれば良いのではないか。
- 【矢島委員長】 報徳社という文言を加えるならば、報徳社そのものの説明が必要になってくるのではないか。
- 【吉良委員】 近現代の報徳運動については様々な要素があるので、ここに加えるのは難しいのではないかと思う。
- 【相澤副委員長】 2段落目に当時の社会情勢から博物館の整備には至らなかったという文言があるが、博物館の開設には至らなかったというように、もう少しはっきりと書いた方が良いのではないか。
- 【吉良委員】 今のご意見からすると、最後の段落の今後、整備される新しい博物館という部分の文言にも関わってくる。
- 【鳥居委員】 整備という文言は、基本構想の段階では特に違和感はないように思う。基本計画の段階まで進んでいけば開設でも良いとは思う。
- 【井上委員】 私は整備で良いのではないかと思う。これまで博物館がなかったわけではなく、郷土文化館は博物館的機能を有しており、今回、それをきちんと整備するということである。開設だと、これまで全く博物館がなかったという前提での話になってしまうのではないか。
- 【吉良委員】 新しい博物館の開設とすれば、開設でも良いのではないかと思うが、整備と開設のどちらとするのが良いか。最後の段落の方は、今後開設される新しい博物館とここで言い切るのは難しい気もするが。
- 【矢島委員長】 修正するとすれば、2段落目の方を新しい博物館の開設には至らなかったとするのだと思うが、この文言自体は整備で良いのではないかと思う。それでは次に、第1章「博物館構想の背景」に移りたいと思うが、ご意見いかがか。
- 【井上委員】 (2)「既存施設間の機能分担と連携」の所について、前回の委員会開催の際、リニューアルした天守閣を見せていただいた。尊徳記念館・松永記念館・小田原文学館などの既存施設については、内容を特化した一種の博物館であるということになると思うが、天守閣については中世・近世の大枠の展示であり、他の3館とはかなり違うと思う。今後、新しい博物館と

天守閣の展示の整合性については、きちんと協議していく必要があるのではないかと感じたので、文言の修正ではないのだが、意見として伝えさせていただく。

【鳥居委員】 天守閣の展示リニューアルに関わったが、展示構成に際しては、城を切り口とすることや観光課の施設である点を考慮するなど、やがてできるであろう新しい博物館とは内容が重ならない様に住み分けはかなり意識した。

【井上委員】 天守閣の展示を見た感じでは、天守閣はビジュアルを中心として実物資料を減らし、実物資料は博物館が主とするということが良いのか。

【鳥居委員】 そのような考え方もあると思う。小田原を訪れる観光客は、まずは天守閣などに行くと思うので、小田原の紹介もしなければならない。また、平均滞在時間がそれほど長くはないようなので、短い時間で見ていただくことも考え、現在のような展示手法を採用した。博物館についてはもっとモノをじっくりと見ていただくというコンセプトになろうかと思う。

【矢島委員長】 扱う時代がどうしても重なるため、ある意味では内容も重なる。しかし、展示手法の工夫や新しい博物館が城に特化した展示を行うわけではないことなどから十分に住み分けはできると思う。

他にご意見がないようであれば、第2章「基本的な考え方と目指す姿」に移りたいと思う。(1)「小田原の歴史をたどる」の所で、「はじめに」でもご意見のあった首都という言葉が「戦国大名小田原北条氏の広大な領国の首都」という形で出てくるがいかがか。

【鳥居委員】 領国という概念に広大さと付け加える必要はないのではないか。

【矢島委員長】 「はじめに」と整合性を取る形で整理したいと思う。

【中村委員】 「はじめに」の文章よりも(1)の文章の方がバランスよく小田原を描いているように思う。

【田尾委員】 「はじめに」の文章は、おそらく城下周辺の発展を中心に書かれていると思うので、意見しなかったのだが、古代についても、足下郡の中心としての官衙や寺院が千代に置かれているので、そのような部分についても加えると市の東部のことに触れられると思うのだが、いかがか。

【相澤副委員長】 今の田尾委員のご意見に伴い、2ページ目の一番下の大化前代という文言について、このような言い方をするのかお聞きしたい。

【田尾委員】 大化前代という言い方はする。特に国造の国については、評制という制度に代わるなど、大化の改新前後で中央の政治体制が大きく変わるため、大化前代というのは用語としてある。

【相澤副委員長】 それでは、大化前代があり、その後は律令制以降という歴史的な流れで良いのか。

- 【田尾委員】 大化の改新を境に律令制度が大分固まってくるため、そのような言い方をすることはある。
- 【鳥居委員】 それは一般の方にもわりと理解できることなのか。
- 【井上委員】 教科書では使われていない用語であると思う。研究的には分かるが、一般的には教科書で使われているような用語を使った方が良いと思う。
- 【鳥居委員】 それでは、この時代を表現する分かりやすい言葉で言い換えた方が良いのではないか。
- 【吉良委員】 (3)「市民とともに活動する」の1行目の本市には博物館資料や地域資源を用いて郷土学習を行う市民団体や個人がおりという部分について、何かがいるという言い方には違和感がある。活動を行っているという言い方が良いのではないか。
- 【鳥居委員】 博物館資料や地域資源を用いて郷土学習を行う市民の活動も盛んであるなどではいかがか。頭の本市にはという言葉を変更する必要はあるが。
- 【吉良委員】 本市ではとするので良いのではないか。
- 【矢島委員長】 (3)については、今のご意見をもとに修正したいと思う。先ほどご意見のあった(1)については、大化前代を言い換えるならば古代などになるのか。
- 【田尾委員】 古代ではない。どちらかという古墳時代の終わり頃などになるかと思う。律令制以降が狭い意味での古代になるのではないか。大化の改新自体の用語はあるため、大化前代については、大化の改新以前にはとするのではいかがか。また、些末なことを言うと相模国足下郡の部分については、小田原市内で足柄の上下分割がされており、小田原は足柄上郡もかかっている。例えば、高田などは足柄下だが、大友などから北は足柄上になるので、それを踏まえておいた方が良いのではないかと思う。かなりの部分が足柄下ではあるのだが。
- 【矢島委員長】 修正した方が良いということなのか。
- 【田尾委員】 正確に記すという意味から言えば、市民から自分の住んでいる地域は足柄下ではなく、上だったはずだという意見が出ないとも限らない。
- 【相澤副委員長】 足柄上郡下郡と繋いではどうか。
- 【田尾委員】 良いかとも思うが、中世以降の上郡と同義になってしまうのではないか。
- 【相澤副委員長】 足下郡とあるのは足柄の柄という字が抜けてしまっているのか。

- 【田尾委員】 古代は2文字で表すというのがあるので、後に変化していくのだが、当初は足下と書いて読み方はあしがらしもとしていた。括弧書きで足柄下郡とあるのはそのためと思われる。
- 【吉良委員】 ルビを振る場合はどうしたら良いのか。
- 【田尾委員】 ルビまでは振らなくて良いのではないか。
- 【矢島委員長】 修正する場合はどのようにするのか。
- 【田尾委員】 括弧書きで一部足上郡含むなどではないか。
- 【相澤副委員長】 そうすると説明的になってしまうようにも思う。
- 【田尾委員】 はじめは上下分割されておらず、足柄評という評が建てられ、それが千代寺院跡の北側で分割されたという経緯もある。細かく言うとするとかなり説明的になってしまうため、このままでも良いかもしれない。
- 【矢島委員長】 それでは、修正はせずにこのままとしたいと思う。第2章について、他にはご意見なしでよろしいか。
- 【鳥居委員】 (3) 4行目の市民にとって施設・活動の両面で使いやすい施設となるべきであるという部分についてだが、(3)は「市民とともに活動する」というテーマなので、施設・活動の両面で利用しやすい博物館であるべきであるなどの方が良いのではないか。また、5行目の終わりの市民が気付きを得るような学習のきっかけづくりという部分は、どのようなことをするのか分からない。需要の掘り起しとあるので、積極的に利用してもらいたいという意味の文章が入っていれば良いのではないか。
- 【吉良委員】 学習のきっかけづくりという要素を残すかどうかは検討が必要だが、削除してしまっても良いかもしれない。
- 【鳥居委員】 それでも良いと思う。活動をサポートするということが述べられていれば良いのではないか。
- 【矢島委員長】 需要の掘り起しが必要であり、市民が気付きを得るようなという部分を削除すると非常にすっきりするように思う。
- 【鳥居委員】 一緒に活動するというテーマなので、してあげるというような文章ではなく、活動を支援し、博物館側にもその成果をいただくというような文章とする方が良いと思う。
- 【矢島委員長】 それでは、4行目の併せて以下の所については、今出たご意見を参考に整理したいと思う。

- 【相澤副委員長】 市民が主体という形で修正したいと思う。
- 【吉良委員】 現在の博物館は、参加するという時代から次の時代に移っており、一歩先に進んだ形を模索している所である。
- 【矢島委員長】 他の所でも市民とともに活動する、市民と育てる、誰でも使いやすいという言葉が出てくるので、それも含めて検討したい。参加を歓迎するというというニュアンスから積極的にともに作るという書き方にしたいと思う。
- 【相澤副委員長】 (1)に戻るが、2ページの8行目の小田原市域を主体としつつ、広域的に設定すべきであるという部分や、その次のより広い視野に立ちという部分は曖昧であるように思う。どこからどこまでの地域というのを設定するのは難しいが、今後の博物館活動の根幹に関わる部分であると思う。より広い視野に立つという言葉を活かし、日本や世界から見たというような言葉を入れた文章にすれば、今後の活動もしやすくなるのではないかと思う。大風呂敷かもしれないが、いかがか。
- 【中村委員】 小田原市に限った活動をするのではなく、小田原を明らかにするためにも、もう少し広い視野に立ち、周辺についても調査・研究、展示などが必要だということだと思う。そのような意味で入れておくと、これからの博物館の調査・研究や展示などの活動も広い視野に立つということによろしいのではないか。ただ、世界と入れると博物館も世界的な活動をするという意味になりはしないか。
- 【鳥居委員】 文章がすっきりしていないので、小田原という地域を理解するためには、小田原市域にとどまらず、日本や世界という視野も持つ必要があるというような文章にすれば良いのではないか。
- 【中村委員】 世界というのは必要か。
- 【鳥居委員】 日本だけではないと思う。
- 【吉良委員】 広域という意味では、出土品などで中国のものもある。
- 【相澤副委員長】 少し古くなるが、東アジアから見たというものもある。もう少しはっきりと書いた方が良くと思う。
- 【矢島委員長】 元の文章を活かすのであれば一部削除をして、小田原市域にとどまらず、小田原の日本史上に占める位置づけを踏まえ、より広い視野に立ち博物館活動を展開する必要があるという形で修正するのが簡単だが、それだと世界という視野が抜けてしまう。

- 【吉良委員】 古い時代のことだけではなく、現代のことも含む文章であると思う。外国の方も多く訪れており、未来のことも考えると世界というのは入れておいた方が良いのではないか。
- 【鳥居委員】 視野を持つ必要があるということだと思ふ。調査・研究にも関わってくる。視野ということなので、世界と入れるのは大風呂敷ではないと思ふ。
- 【矢島委員長】 世界的視野に立つとまで言い切ると性格が曖昧になる気がする。小田原が主体であるということはきちんと位置付けたうえで、それにとどまらない視野で活動するというようにしたら良いか。
- 【相澤副委員長】 広い視野というのを説明するかどうかということだと思ふ。日本や世界といった広い視野などの文章であれば分かりやすくなるのではないか。
- 【矢島委員長】 そのような形で修正したいと思ふ。
- 【田尾委員】 (4)「まちをまるごと博物館にする」の1行目の終わりのまちをまるごと博物館の活動の場としてとらえていく必要があるという部分だが、この書き方だとまるごと博物館を先に作り、その活動の場であると捉えられてしまうのではないか。まるごと博物館というのはここではじめて出てくる文言であると思ふ。最初の説明としては、博物館活動を施設の中だけではなく、市内全域を博物館の活動の場として捉えるなど易しい言葉で言い換えてはどうか。また、その次のこうした活動はそもそも博物館活動に含まれているものであるという部分だが、エコミュージアム的な意味で捉えているのか、それとも全体の地域資源活用の立場で考えているのかが気になる所である。まるごと博物館の活動というとはやはりエコミュージアム的な活動を思い起こしてしまうが、そうすると地域の人たちが主体的に活動するのを博物館がサポートするという形になると思ふので、意味合いが変わってくるのではないか。その後の大部分では、既存施設との連携について触れられており、第3章「新しい博物館の方向性」の(7)「連携の中核となる博物館」と重なる部分があるように思ふのだが、いかがか。博物館の活動領域を市域全体に広げていくということであれば、こうした活動はそもそも博物館活動に含まれているものであるがという部分はそのまま活かせると思ふが、エコミュージアム的なものであれば、そもそも博物館活動に含まれているものではなくなってくる。近年の新しい博物館ではこういったものを取り入れることが多くなってきて

いるので、例えば、こうした活動は近年、他の地域では試みられているが、本市は特にというような形になるのではないかとも思う。

- 【中村委員】 具体的にはどのような文章に修正するべきか。
- 【田尾委員】 まずはまるごと博物館の意味付けをどう捉えているのか。いわゆるエコミュージアム的なまるごと博物館なのか、それとも博物館の資料として地域資源を考えているのか。それによって文言のニュアンスが変わってくると思う。この文章を見る限りでは、地域資源の博物館利用というニュアンスであるように思う。そうするのであれば、先程も申し上げたが、博物館活動を施設の中だけではなく、市内全域を活動の場として捉えていく必要があるとし、こうした活動は以下についてはそのまま良いのではないか。
- 【中村委員】 委員会の最初の方で、エコミュージアムについても話が出たが、それは今回の構想には含まない形になったかと思う。エコミュージアムとはまた少し違ったまるごと博物館を考えているように思う。
- 【田尾委員】 知っている人が読むと、まるごと博物館とあればエコミュージアムの活動であると思われる可能性が高いのではないか。
- 【中村委員】 (4)の文章を読むと、「まちをまるごと博物館にする」というのは情報発信のことにように思う。情報発信をして皆がまちに向かう前に情報を知り、それをもとに主体的に行動するということになるのか。具体的に学芸員が出て行って何かするという事なのか、情報を豊かに発信することなのか、そのあたりが分からない様に思う。文章中にはほとんど情報発信のことが書かれているようだが。
- 【吉良委員】 前の委員会の際、まるごと博物館についてはどのような結論となったのであったか。エコミュージアムではないということになったのだったか。
- 【中村委員】 エコミュージアムとするならば、当然センターとなる博物館の作り方も大きく変わることになるが、そうではないということになったと思う。理念として、まち全体を市民の人達が情報共有し、博物館が様々な情報を発信することで、皆が理解を深め、博物館でなくともまちの中で学び、活動もできるというようなイメージで理解していたが、いかがか。
- 【矢島委員長】 エコミュージアムではないと思う。
- 【相澤副委員長】 (4)の4行目に豊富な地域資源を有するとあるが、ここの所に考えが見

えているのではないか。先程田尾委員が言われたように、豊富な地域資源を活用するのがまるごと博物館であるということなのではないか。最初の段落でまるごと博物館の定義をしておく必要があると思う。1行目の博物館活動を施設の中だけではなくの後は、豊富な地域資源を活用するまるごと博物館の場としてとらえていくなどで規定してはいかかが。2段落目以降は他の文章と重なる所もあるので、整理が必要かもしれないが。

【鳥居委員】 2段落目の最初、そのためには以降に具体的な活動内容が書かれているが、既存施設というのはこれまでの文章では文学館や尊徳記念館など既存の展示施設のことかと思うが、ここでも同じと考えて良いのか。

【岡郷土文化館副課長】 第1章の(2)で博物館的な機能を持った施設を既存施設と位置付けている。

【鳥居委員】 まるごと博物館というのは、街かど博物館や市内にある文化的な施設、歴史的な資産も博物館の活動は対象とするというような意味ではないかと理解していたのだが、既存施設などが小田原に存在する地域資源の情報を集め、博物館資料の情報と合わせてとあるので、活動する主体に新しい博物館が入ってこなくなってしまうのではないか。その後も、既存施設が発信する情報とあり、新しい博物館が発信する形ではない文章になっているので、誰がどうするのが分かる文章とした方が良いと思う。「まちをまるごと博物館にする」という内容は、前文は良いが、具体的な活動としては、市内にある歴史的・文化的資産を、新しい博物館だけではなく、既存の施設や市民団体と連携をとって調査し、その情報を新しい博物館が一元的に管理を行い、市民にも提供する。このような文章であれば、新しい博物館の活動におけるまちをまるごと博物館にするという内容が理解できるのではないか。今の文章のままでは、具体的にどのようなことを行おうとしているのかが分からないのではないかと思う。

【相澤副委員長】 (4) 自体が、新しい博物館のことだけではなく、既存施設も含めた小田原全体の博物施設の在り方のようなことが述べられているが、第2章に入りたいというのは分かる。主語が曖昧なので、それをどうするか。

【矢島委員長】 第3章の(7)との関わりで、考えなければならない部分である。鳥居委員のご指摘のように、新しい博物館がどのような位置づけで何をするのかが良く分からない形になってしまっているの、そのあたりを整理して書き直す必要があると思う。

- 【田尾委員】 第3章（7）には明確に既存施設間の連携と記載があるが、第2章（4）には記載がないので、曖昧になっている。
- 【相澤副委員長】 第3章（7）「連携の中核となる博物館」のバックボーンとして言いたかったのではないか。
- 【矢島委員長】 何をどうして連携の中核となるのか言わなくてはならない。
- 【鳥居委員】 ここで言いたいことは、小田原はまちの中に色々な文化的な資産があり、それは個人宅や民俗的な風習、伝統、街かど博物館などの市民の協力によって展示を行っている所もあるため、そのような動きを新しい博物館がより活性化させたいという考えなのではないかと思うので、そういった書きの方が良いのではないか。「まちをまるごと博物館にする」というタイトル自体は、問題がないと思う。どのようなことをやろうとしているのかが分かるし、活動によっては他の博物館が行っていないような活動もできるのではないかと思う。ただし、文章はこのままでは分かりにくいので、修正する必要があると思う。既存施設はあまり前面に押し出さずに市民が持っている文化資産などについてももう少し強めに書けば、(3)「市民とともに活動する」の項目を補うような形になるのではないか。
- 【矢島委員長】 現在持っている既存施設や地域に存在する様々な資源を全部繋げてまるごと博物館にするという前提が抜けているように思う。後の章とも重ね合わせ、こうした新しい組み立てを作っていくためにも中核としての新しい博物館の役割があるとすると、どんなものをどのように組み合わせるかを狙うのかということが後ろに書いてあるが、これを少し整理して足せば良いように思う。
- 【相澤副委員長】 少し大変だが、そのような流れに修正するのが一番良いように思う。
- 【鳥居委員】 後半の部分は、博物館全体の基本的な活動に関わってくる部分であるので、ここで改めて再掲する必要はないのではないか。市民と博物館が協働して様々な取り組みを行えるよう、開かれた場である必要があるという部分や市民の声を反映させる必要があるという部分などは、基本的な博物館の在り方を示す部分である。
- 【吉良委員】 色々な部分を再度記載しているようであり、盛り込みすぎているように思う。もう少し整合性を取れば良いのではないか。
- 【相澤副委員長】 まるごと博物館に絞れば、(4)は2段落までで良いということになるか。

- 【吉良委員】 削除する部分ができきちんと書かれているかは確認が必要である。ここに盛り込んでしまったのならば、あるべき所に移してはどうか。
- 【鳥居委員】 新しい博物館は、市内にある文化的な資産を重要視して、博物館で展示している資料と有機的な連携を持って活動を行うということだと思う。
- 【相澤副委員長】 第3章「新しい博物館の方向性」に（7）「連携の中核となる博物館」が出て来る。第2章（4）「まちをまるごと博物館にする」では、新しい博物館の活動の背景にこのような考え方があるのだということを示しておけば良いのではないか。その中で新しい博物館をどうするのかということについては、第3章（7）に出てきている。あくまで「小田原の宝」を守り、市民とつくる博物館というような新しい博物館をつくるためのバックボーンとして記載があれば、それほど具体的に新しい博物館の役割に触れなくとも良いのではないか。1、2行程度であれば触れても良いかもしれないが。
- 【矢島委員長】 第2章の（4）については、今のご意見をもとに整理したいと思う。それでは、第3章「新しい博物館の方向性」に移りたいと思うが、ご意見いかがか。
- 【中村委員】 （2）「誰でも使いやすい博物館」の所で、大変大切なことが書かれている。新しい博物館の諸活動・施設は、年齢、性別、国籍、文化の差異や、障がいの有無にかかわらず、誰でも使いやすいものである必要があるとあり、これは現在の博物館で大変求められている大事なものである。ただし、この説明のところでは、次世代を担う子どもたちのことは書いてあるが、重要なバリアフリーのことについては全く触れられていない。また、誰でも使いやすいようにするには、建物の構造もそうだが、展示の説明文の言語を何にするかなど非常に大きな問題が多く入っている所であり、これからの新しい博物館の方向性として非常に大事である。子どもに関する文章と同じ程度には文章を割いてもう少し大きく言った方が良いのではないか。特に小田原は観光地であり、障がいのこともそうだが、様々な国や文化の違う方たちが来館すると思われることから、そのために何をすべきであるかということについて構想であるし、もう少し具体的に展開したが良いと思う。子どものことについては他の所でも多く触れられている。
- 【吉良委員】 むしろ子どもの部分をもっと少なくして言語などのことについて記載し

てはどうか。

【中村委員】 そのように思う。そうでなければ誰でも使いやすい博物館にならないのではないか。具体的には難しいが、英語・中国語・韓国語など展示の説明文にどこの言語を使うのかといったことに始まり、障がいの方であれば展示の高さや展示施設のこともあり、どこまで意識するかで建物の構造全体にも関わってくる。ここにどの程度具体的に入れるべきか。

【田尾委員】 例えば、バリアフリーにとどまらずユニバーサルデザインを取り入れるなどとするのか、もう少し細かい所まで入れるのか。

【中村委員】 点字での展示解説や5ヵ国語のガイドを作るなど色々試みている博物館が多くある。構想なので、そのような新しいことも是非入れていただきたい。

【岡郷土文化館副課長】 当初はバリアフリーやユニバーサルデザインという言葉を使っていたが、これまでの委員会の中でそれは当たり前のことであるという話が出たため、現状の文章になったものである。

【中村委員】 確かにそうではあるのだが、もう少しどこに気をつければ良いのか、どのようにすればバリアフリーになるのかという点などを具体的に記載した方が良いのではないかということである。

【矢島委員長】 具体的に記載するとすればどのような文章となるか。

【鳥居委員】 以前の委員会でバリアフリーの話が出た際にユニバーサルデザインという言葉がどの程度浸透しているのかという話になったと思う。その対応策として年齢、性別、国籍、文化の差異や、障がいの有無にかかわらずという具体的な例示がされている。これをさらに具体的にというと中々難しいのではないか。文化の差異や、障がいの有無などを考慮したユニバーサルデザインの考え方を導入したというような言葉にしてはどうか。

【吉良委員】 ユニバーサルデザインという言葉を使うということか。

【鳥居委員】 ユニバーサルデザインの考え方を取り入れるといった使い方をすれば良いのではないか。実際には、展示のパネルの問題などもあるが、詳細に書こうとすればいくらかでも書けてしまう。

【中村委員】 施設や展示や印刷物などももう少し具体的に書いておかないとこれだけでは何を意味するのか分からないようにも思う。後半の子どもの部分の記載はとても具体的であるが、前半の部分はあまり具体的に書いていないように思う。子どもの部分と同じくらいの分量で、実現可能な案について記載し

ておいた方が良いのではないか。どのように書くか、どの程度具体的に書くのが難しいとは思いますが。

【相澤副委員長】 子どもの所だけが具体的すぎるようにも思う。全体の文章としてバランスを取ってはどうか。

【中村委員】 子どもはもちろん大切であるが、前半の部分もとても大切な部分である。知恵を絞らないと誰でも使いやすくするというのは容易なことではない。

【相澤副委員長】 子どもの所が特にと例示的に書かれており、バリアフリーについてはあえて具体的な記載がなくとも博物館を建てる際には必ず必要なことなので文章のバランスが悪くなっている。子どもの部分を少し抑えるなどしてバランスを取ってはどうか。前半の部分も同じくらい具体的に書くとすると、かなり長い文章となってしまうのではないか。

【鳥居委員】 使いやすい博物館の中に子どもを入れてしまっていることに無理があるのではないか。施設やパネル、インフォメーションの問題はあるが、子どもを重視するというのは他の所に書けないか。

【吉良委員】 子どもたちにとってだけではなく、年を取った世代がこれからもっと増えていく。その人たちのことも含めると、あまりたくさん盛り込まず、理念をきちんと記載すれば十分伝わるのではないか。

【鳥居委員】 すでに年齢という形での記載がある。

【吉良委員】 この年齢という記載の中に子どもや高齢者についても入っている。

【相澤副委員長】 子どもの所を特に記載しているのは事務局に強調したい理由があるのか。

【岡郷土文化館副課長】 後の節で学校教育についての記載があるが、これまでの議論の中で、学校教育との連携で子ども達が訪れるだけではなく、子ども達が主体的に訪れるという点も重要だという所から、この「誰でも使いやすい博物館」という節の中にも盛り込んだものである。

【吉良委員】 子ども達の中に幼児教育も入っているということだと思うが、一行程度に抑えても良いのではないか。

【中村委員】 最初の年齢・性別・国籍と続く部分に比べると、子どものことを特に強調している部分はここに入れるには小さいのではないか。博物館の検討では必ずバリアフリーについて議論が出るが、具体的に実現している所はほとんどなく、大体がスロープの設置や車椅子の用意といった程度であるように思う。小田原市に博物館が建設されるのであれば、大きな売りに

なるであろうと思うし、本来ならばもっとバリアフリーに対して考えた建築構造や展示計画にするべきである。ただし、それは今後の大きな話になると思うので、ここでは重要であるということが盛り込めれば良いのではないか。

- 【相澤副委員長】 実際にケアをする職員の配置などについても大事になってくる。
- 【中村委員】 展示や情報発信をする上で、日本語だけで良いのかという言語のことについても気になっている。多くの博物館で言語については問題となっている。
- 【田尾委員】 もう少し順番をひっくり返してまとめてはどうか。例えば、「新しい博物館は、年齢・国籍・文化の差異や障がいの有無に関わらないような」とし、鳥居先生のご意見でもあったように、「ユニバーサルデザインの考え方に基づき」として、最後は「施設・設備・展示等の博物館の諸活動において誰でも使いやすい博物館とする」というような形で入れ替えてはどうか。
- 【矢島委員長】 子どもの所は文言を縮めて、「ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた、誰でも使いやすい施設である必要がある」などの表現にここは留めるということではいかがか。例示をし始めると切りがなくなってしまう。子どもも例示のひとつであるが、高齢者にどのような対応をするのかということがある。また、健常者と障がい者の対応の違いについては展示の高さについて言及することになるが、それぞれで高さを変えることは中々実現が難しい。多言語についても少なくとも英語には対応するということ併記するかどうかという点があるが、どこまでの言語に対応するかについて例示で具体的な言語数を示すのも難しい。例示で書ききることが難しいので、これまでの委員の皆さんのご意見をもとに文言を整理させていただきたいと思う。その他はいかがか。
- 【鳥居委員】 「誰でも使いやすい博物館」の所で、後半の部分では「利用」という言葉を使っている。「誰でも利用しやすい博物館」の方が良いのではないかと。同じような言葉ではあるが。
- 【吉良委員】 全体にどのようなトーンで言葉を使っていくかという問題である。
- 【中村委員】 全体の統一性に関わるので、難しい。
- 【相澤副委員長】 使いやすいという言葉にしたのは設備や施設全体の構造などを考えてのことだったかと思う。利用しやすいというと例えば夜間開館なども含まれる

ことも考えられ、かなり広い意味となる。使いやすいという言葉が最適かどうかは難しいが、ここでは設備に特化した形で使いやすいという言葉としたのではないか。

- 【吉良委員】 節のタイトルとなっている言葉を変えるのであれば、きちんと議論をしなければならぬが、前の議論の中で取り上げた可能性もある。
- 【矢島委員長】 「伝える」や「育てる」と同様に、これまでの議論の中で分かりやすい言葉で表現をするということで、このような表現を取ってきた。使いやすい利用しやすいなどあるが、極端なことを言えばどちらでもかまわない。
- 【中村委員】 全体の統一性が取れていれば構わないのではないか。
- 【鳥居委員】 語感の問題である。基本構想の場合には利用の方が相応しいように思うが、どちらの言葉でも構わない。
- 【矢島委員長】 単に施設の事だけではないとすると、利用しやすいの方が話が広がるが、節のタイトルで、本文ではない。
- 【井上委員】 タイトルまでは変えなくて良いのではないか。使いやすいは一般的な易しい言い方であり、言葉としての柔らかさがある。タイトルを活かすならば使いやすいの方が良いように思う。
- 【吉良委員】 以前にもこのような議論をしたように思う。
- 【井上委員】 確かにあったように思う。タイトルはなるべく平易な言葉でということと節タイトルの文言を修正したのではなかったか。
- 【矢島委員長】 最終的には今の委員の皆さまのご意見をもとに考えさせてもらいたい。それでは、第5章からは前回議論したので、第4章までの所で他にご意見いかがか。
- 【中村委員】 第3章（7）「連携の中核となる博物館」について、最後の段落で、歴史的価値が認められる公文書、歴史資料として活用が難しい現代美術に関する資料とある。現代美術に関する資料の前に歴史資料として活用が難しいという言葉をつけることは非常に良くないように思う。余計な装飾語はつけるべきではないし、公文書についても歴史的価値が認められるか認められないかという線引きをすることができないと思う。ここは単純に、残された公文書や現代美術に関する資料についてはとして良いのではないか。今後考えていくということが示せば良いと思う。
- 【矢島委員長】 そのようにしたいと思う。

- 【相澤副委員長】 (7)「連携の中核となる博物館」の位置であるが、最後の節にあるが、もう少し前の位置にという議論があったように思う。既存施設の中核となるという部分なので、もう少し前の方が良いのではないか。
- 【吉良委員】 第2節の位置が良いかもしれない。
- 【鳥居委員】 他の文章と関係してくるのではないか。まちをまるごと博物館ととらえた取り組みを推進するという形で目的が明確になっている。前の章に(4)「まちをまるごと博物館にする」があるので、これに対応させているのだと思う。連携の中核というのはまちをまるごと博物館にするだけではないと思うが、この言葉があることによって限定がかかってしまっている。
- 【吉良委員】 確かに第2章「基本的な考え方と目指す姿」の節の構成と第3章の節が対応している。
- 【鳥居委員】 連携の中核というのはもっと重要なことである。まちをまるごと博物館とする活動について盛り込んだことによって少し違和感がある。
- 【中村委員】 文章の始めがまちをまるごと博物館ととらえた取り組みを推進するという文言になっていることには違和感がある。後ろの方に説明を持ってきた方が良いのではないか。一番重要なのは、新しい博物館が既存施設の連携の中核となるということである。そのことがまちをまるごと博物館にするという所にも影響はあると思うが、最初にあるのは本末転倒ではないか。2行目の新しい博物館はから始まって良いと思う。併せての所にまちをまるごと博物館にする取組について記載してはどうか。
- 【矢島委員長】 それでは、(7)の位置についてはこのままでよろしいか。
- 【鳥居委員】 内容として盛り込まれていれば位置はこのままで構わないと思う。それよりも、(7)「連携の中核となる博物館」の内容自体がこのままだとひとつのことに限定する書き方になっていることの方が気にかかる。
- 【矢島委員長】 まるごと博物館にするための仕掛けになってしまっていることは問題がある。
- 【中村委員】 誤解されてしまうかもしれないのは良くない。
- 【矢島委員長】 それでは、最初の1行は削除したいと思う。
- 【相澤副委員長】 (1)～(7)までが同じレベルのものであれば良いと思うが、そこに少しメリハリをつけるのであれば(7)は重要度が高いかと思う。そこまで考える必要がなければこのままでも構わない。

- 【矢島委員長】他に第4章であるか。第5章はあまり大きく直したところはないように思うが。(1)「望ましい施設・設備」の中にユニバーサルデザインについて入れるという意見があったので、こちらは検討する。
- 【中村委員】誰にでも使いやすい施設・設備ということは入れておくべきである。
- 【鳥居委員】第5章であるが、前回施設であるか設備であるかが分かりにくいという発言をしたので、改訂が加えられたと思う。ただ、立地、施設、設備の順に記載した方が良いのではないか。施設と設備をひとつにしてしまっただけが良いのかという点もある。立地が決まり、そこにこのような施設を作りたいとなり、その施設の中にバリアフリーなどの文言が入るとするような順ではないか。また、7ページ3行目の機会を捉えて利用者のニーズや技術革新を反映させる見直しが必要という所だが、定期的に見直しを行わないといけないものがある。機会を捉えてとってしまうのは問題があるのではないか。
- 【相澤副委員長】ここは気になっていた。少し腰が引けた表現ではないか。定期的にとした方が良いと思う。
- 【鳥居委員】映像設備などは定期的に見直しを行わないと陳腐化してしまう。
- 【矢島委員長】定期的にとという形で修正したいと思う。
- 【中村委員】(2)「望ましい立地」最後の所で、小田原城址公園周辺が候補として考えうるとあり、策定委員会としてはこれを一押しにするという書き方になっているが、よろしいか。前回は議論が出たが、前半部分の規模や災害への備えなどについて城址公園周辺の立地が満たしているのかという問題がある。中々両立するのが難しいことであるのは承知しているが、策定委員会として具体的な候補を挙げるのかどうかは議論が必要ではないか。
- 【矢島委員長】周辺をどこまで捉えるかという問題がある。
- 【中村委員】記載するのが悪いということではないが、基本構想であるので、あまり具体的に挙げていない中、ここだけ具体的になっている。
- 【相澤副委員長】城址公園周辺というと一番環境的には良い。
- 【矢島委員長】既存の様々な中核や回遊ということを考えると郊外というわけにもいかないし、この表現でよろしいのではないか。
- 【鳥居委員】交通の利便性や既存施設との連携は大事であるが、館の基本テーマとのつながりを書けば城址公園周辺という文言に説得力が増すのではないか。

【矢島委員長】 それは追記した方がよいように思うので、ここはそのような形で整理したいと思う。それでは、第5章の後半と、第6章は前回の議論をもとに整理した。「おわりに」の文章については大きく変えたが、ここについてはいかがか。

【吉良委員】 前回の意見は反映されているように思う。

【矢島委員長】 それではほかにご意見なければ本日の会議はここまでとする。

5 その他

大木生涯学習課長より、今後の答申の取り扱いについて報告した。また、修正した答申文案については、委員の方の意見も伺い、最終的な答申については正副委員長と調整して取りまとめをさせていただくことを伝達して散会した。